

学 校 名	狛江市立狛江第五小学校
コーディネーター数	1人
ボランティア数	10人

□ 活動の概要

1、教室での学習支援

ボランティアが、見守り支援を必要とするクラスに1日あたり述べ1～2名各2時間程度サポートに入り、学習支援を行う。ボランティアは元PTA役員やスポーツ団体など、学校と関わりの深い人材の中から、コーディネーターが人選してお願いしている。

平成29年6月より支援を開始し、12月末までに述べ約300時間弱の支援を実施。必要に応じてボランティアや校長、副校長、担任、学校支援担当教諭でミーティングを行い、状況の共有化、意見交換を行っている。

2、英語教育支援

Skypeを活用し、4年生の学級にてキャンベラのオーストラリア人大学院生との交流を行った。Skypeの映像を教室の大モニターに映し出し、子供たちと対面しながら様々な会話をを行った。

□ コーディネーターの役割

コーディネーターの数が一人と少ないため、ボランティア等を手配しながら、円滑かつ効率よく学習支援ボランティアが実施できるよう配慮した。

□ 活動上の工夫や配慮等

英語教育支援では、当日冬のキャンベラの大学キャンパスの様子やマフラーやダウンジャケットを着た様子から、日本とは真逆の南半球の季節を子供たちに確認させ、南半球と北半球で四季の違い等を感じることができるようにした。また、オーストラリアは時差が日本とほぼ同じであるため、リアルタイムで会話に参加しやすい環境を整えた。

□ 活動の成果や感想（実践を通じた児童・生徒、地域の活動者、学校等の声や反応など）

教室での学習支援では、補助等を行うことで授業をよりスムーズに行うことに繋がった。担任教諭からは、クラスの状況が大幅に改善されたとのコメントを頂いている。

英語教育支援活動においては、子供たちが単に英語を学ぶだけではなく、外国の文化等に興味関心を持って取り組んでいた。子供たちからは次々と質問の手が上がり、日本との違いを知ることにより広い視野育てることに繋げることができた。